

私が担当するこのコラムにも何度か登場している松浦武四郎。江戸末期から明治にかけて活躍した三重県松坂市出身の探検家、浮世絵師、著述家、好古家です。松浦は北海道の名付け親でもあり、雅号も北海道人。今年には北海道命名150年ということで名付け親の松浦の肖像写真がポスターになっています。彼は1845年28歳の時初めて北海道に渡りました。理由はロシアが勢力を広げるために蝦夷地を狙っていることを知ったからです。日本の危機を感じた松浦は生涯を通じて6回北海道に足を運び、詳細な記録や地図を作成します。アイヌの人たちと寝食を共にすることで彼らの協力も得、名寄からピヤシリを抜け幌内川に沿って雄武にも来ています。

蝦夷地に新しい名称をつけるため考えられた候補は「北加伊道」「高見道」「北海道」「海島道」「東北道」「千島道」の6つ。最終的に「北加伊道」の加伊が海になって「北海道」に決定したそうです。



北海道150年事業の「松浦武四郎」展は北海道博物館で8月26日(日)まで行われています。

地域おこし協力隊が行く！

女性が担任の女の先生の授業で「北海道のおこっぺを探しなさい」と言われました。コッペパンのような名前だなぁと親しみがわき、夢中になって地図の上を探し、それがきっかけで地図を読むのが好きになったそうです。そして、とうとう50年近くなった今、旅行で興部まで来たと言っています。小学時代のたったひとコマの授業で与えた地名が一人の人生に彩りを与えることもあるのです。



地域おこし協力隊 観光推進 支援員 佐藤 寧

Activity Report

地域おこし協力隊 ～活動レポート～

Kids

わんぱくキッズ (若草保育所) ～大きくなったら～



坂面リョウターゴト

たかの しんごくん



石原ゆづり

いとう ことね ちゃん



シムーン屋カズ

いのうえ みなとくん

Everyone's dispensary

みんなの保健室

比較的涼やかな気候の雄武町ですが、少しずつ夏らしいお天気になってきました。夏休みなどもあり道外へお出かけする機会もあるかもしれません。今回のテーマは、今年特に猛威をふるっている「熱中症」です。



熱中症ってどんな病気？

熱中症とは、高温多湿な環境に、私たちの身体が適応できないことで生じるさまざまな症状の総称です。

熱中症になると、次のような症状が表れます。

めまい・顔のほてり・筋肉痛・筋肉のけいれん（こむら返り）・体のだるさ・吐き気・汗が異常に多い・汗がまったく出ない・体温が高い・皮ふの異常（赤くなる・乾く）・呼びかけに反応しない・まっすぐ歩けない

子どもや高齢者は症状がわかりにくく、体調の悪さをうまく表現できないことがあります。周囲の大人が注意深く子どもの様子を観察したり、お互いの様子に気を配ったりするようにしましょう。

どのくらいの気温でどんな注意が必要？

気温	レベル	注意事項
31℃以上	危険	高齢者は安静状態でも熱中症の危険性が大きいです。外出をなるべく避け、涼しい室内に移動しましょう。
28～31℃未満	嚴重警戒	外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意しましょう。
25～28℃未満	警戒	運動や激しい作業をする際は定期的に十分な休息を取り入れましょう。
25℃未満	注意	一般に危険は少ないですが、激しい運動や重労働時は注意しましょう。

熱中症かな？と思ったら・・・

- ◆ 医療機関へ相談、または救急車を呼びましょう。
- ◆ 涼しい場所へ移動しましょう。
- ◆ 衣服を脱がし、体を冷やして体温を下げましょう。（首やわき、股関節などを冷やすと効果的です）
- ◆ 塩分や水分を補給しましょう。（嘔吐している・意識がない場合は無理に飲ませてはいけません）



問保健福祉課保健係